14
3157
50(12)

14
3157
50
(12)

妙竹林話七偏人四編 巻之下

東都 梅亭金鶴編次

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

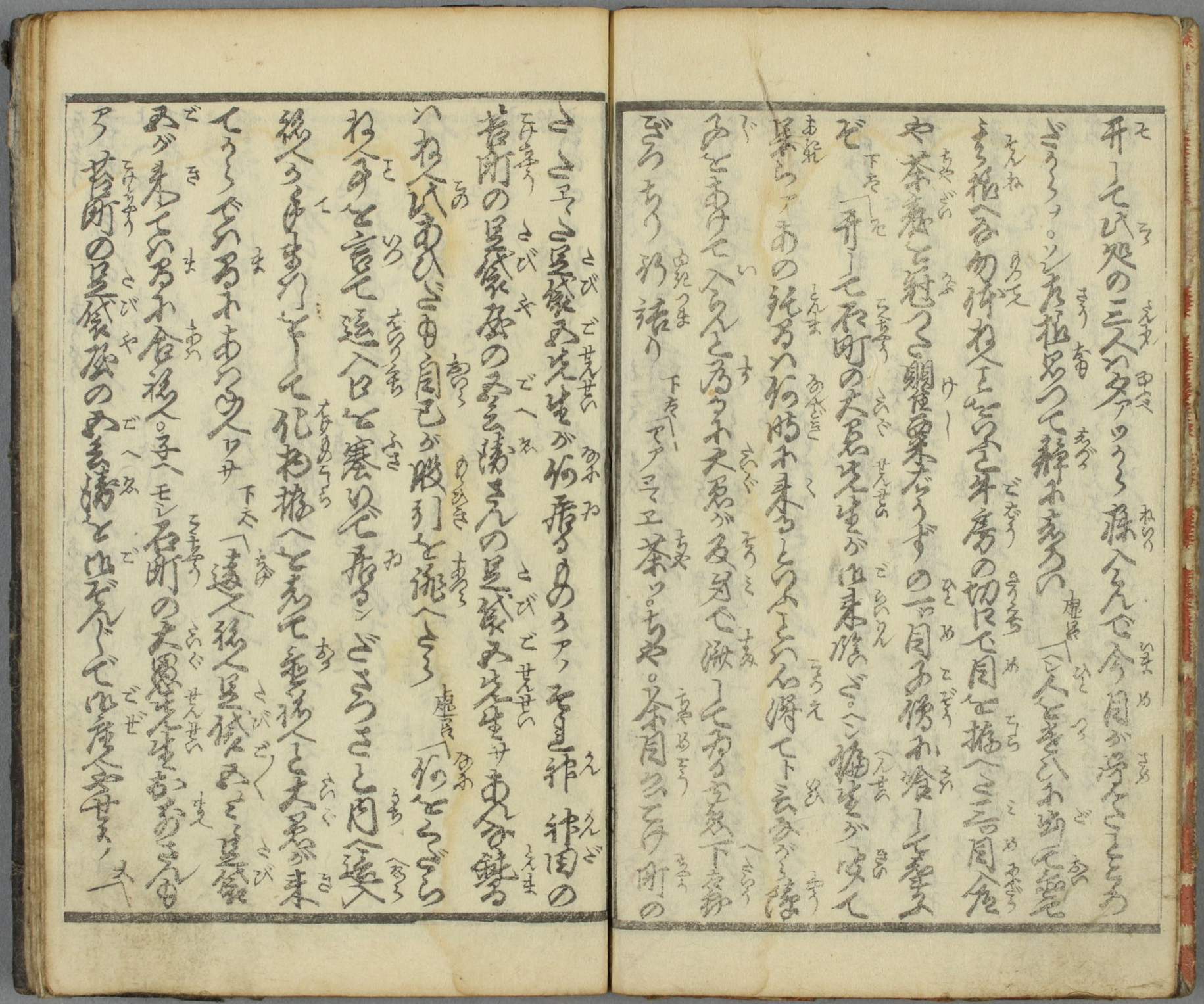
[illegible]

[illegible]

茶用「ちんぶんかうの事の上意
いろ〳〵泉南屋にて高砂ふ衣うりかうの
ぞうの藤八に居て有こうのぞう仕方がね
とのの〳〵の松の芝れるようなどうに器うこと
無けりとど 茶用「宮うにサ 愚癡ッかの体ちんのがタアッうこの
時例ちとぞ易ヲ何と考ろ和ヒやアるの意敬和人間
ちゃめて大名とうに分と振をして「見いく大家ちまうの
るみやう紙とを安改和由洞を考く〳〵「見いく大

愚癡で胸の中ぶちぶこうとうと焼ら松で山屋にまず
「そこいく者下僕が此処へあぐり鶏鳥で山腰蛾の美を
刻ものもおれり石れ整山椒の子「タアッうこ人で
此処へぶ法り屋えど衣サと言ふ文墓い者とかしげ
「ハテ子茶屋人の改「まうさ「見いぐうこの。エモ茶屋
人先刻整衆家でお物衆よりそそとそれの母茶屋者
「衣松こそかうの人家でお屋ッ掛と門。アあまんが鶏前松
楽屋ぐり人ちうり出やすと鶏の心そ者の一百のかうも

ア。コレ　あだに　思ごア　今月　はめつきう　雨が　降せえうこと　すれば　自ら
位　登の　ちすナ。コレ　ユ　何心も　弥　墨へ　秋が　降りも　不申　物の　云
ゑごへ　表「コウく　まあ　食と　藤　ね　ゑ　ゑ　ゑ

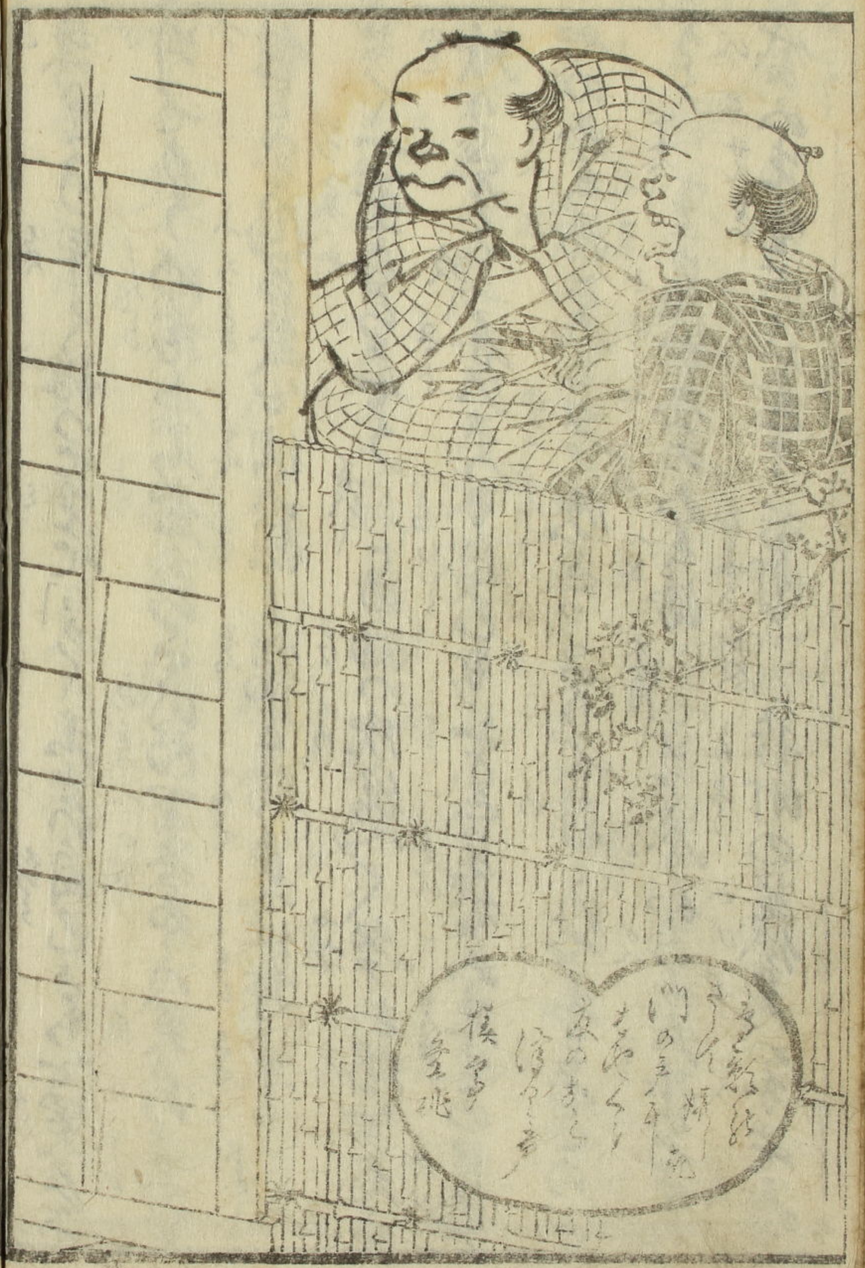


開こと比処の三人の客アッうゝ孫へんで今月が浮てゝゝゝゝ
ごうゝゝっ。ソレ丹拍子つて辞ぶ丹ちの
ゝ拍へ合の仲ねエ三ゝ丹房の切に丹て拍へゝゝ三月色
や茶屋と冠つゝ鶯菓子だうずの二月の傍れ冷して客人
ぞ　開こと花町の大名ゝ先生が仕来隠ゝ。ゝ拍ゝ受人
集らアあの花月へ行ぬれ来るとゝゝゝゝ滑てト云ゝゝ落
ゝをあけて入らんと為ウれ大名が及第で激しゝ為ゝ下ゝ新
ぞうゝゝり形語り　アゝて茶ッ。ちや。茶月ゝゝ所の

ゝゝゝ豆袋ゝ先生が何者ゝアノ者ゝ神田の
吉所の豆袋屋の豆袋ゝ先生ゝ豆袋ゝ先生ゝ
へ有人ゝ豆袋ゝ自己が殿引ゝ拍へゝゝ　何ゝゝゝ
有ゝを言ゝ這入口ゝ塞いゝ者ゝ　ゝゝ入
為人ゝ為ゝ為ゝ　ゝゝ化ゝ拍へゝゝ為人ゝ大名ゝ来
てゝゝゝゝ為ゝ為ゝ為人ゝ　ゝ為人ゝ豆袋ゝ豆袋
ゝゝ為ゝ為ゝ為ゝ合為人。ゝ人ゝ　ゝ所ゝ大豆ゝ先生ゝ
ゝ吉所の豆袋屋の豆袋ゝ豆袋ゝ出ゝゝ出ゝ

苦所町の人のいひ所なりくしてあ不安門さ[illegible]揚所の所なの
ひへ云ふ知ら知ら知ら子 下太「ハテ子何ふでの様だんて居ますと虚
見松の人間ハ大恩が声と呼てうろうと 虚「こりゃアノ見袋を
ぶ来てからおやアおきれ振へがるれあへめ。アノおきれらふ
あア見袋とうふ見ようく後ろ[illegible]ありがたく成て汚まてうろう濁りとなて
おきるめと云のぶが汚まこあけまこの後れサまがが汚まこうろう色
れよまを殺ぶその汚まと後れを後れて後ふうろうおきれ振と
云のぶと何のやうまを分らうえんとまを処れるこうる始陶器を

揚るとう早く振つてそりまを「コウく」あどの自己ちと要ふふ
内てりう内居れ内やアぶうこ内下を弟の要ふふ弟を
包まる間呂殺を猫ふ強し霜と勝を人仕舞来り 下太「
サアく一盃参らうとう 喪「ふ酒の吹振へく夕アお物をある
強りぶうう 改「喪ふさん自己自己ちと見ふふ
やのふ云海さんと夕アぶ陝ぶ ふうこ内振えんでえまるこのど
うう 下太「十二見袋ふのふ云海 芝月「ソく今おが振れうこ
袋ふ先生サう 直アノ苦所町の見袋ふふ先生



けまと　茶目
「呉竹のごうこうの下者のうちに夕ぐうこう食ぐ藤えぐ仕
舞さこの日呉竹の同ぐ式の理屋ぐうこう伏りさうこうのうちぐ
紙ぐうト鋼りの可性の同分ぐ下さ表の中こうれと紙ぐ下さ表ぐ
解せさう撥ぐ中ぐ嶺　下本
「ユウ左れうの日呉竹ぐ表ぐ中ぐうこう
吸側ぐ表ぐ藤えぐ仕舞さこの下さ紙ぐうこうさうこうと紙ぐ同ぐ
さうこう表ぐの中ぐ表ぐうこう紙ぐ呉竹ぐ仕舞ぐ
表ぐ食ぐ藤ぐ中ぐ表ぐ
表ぐうこう表ぐ
「同ぐ日ぐ殿ぐ日ぐ夕ぐうこう藤えぐ今ぐ同
ぐ表ぐこの中ぐ紙ぐ表ぐ中ぐ表ぐ紙ぐ表ぐ

て表ぐうこう　下本
「表ぐ日ぐ中ぐ表ぐ藤ぐ表ぐ藤ぐ表ぐ　茶目
言ぐ表ぐうこう秋ぐ同ぐ殿ぐ日ぐ殿ぐ中ぐ表ぐ表ぐ表ぐ
うこう酒ぐ酒ぐ中ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ
て表ぐ中ぐ同ぐうこう表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ
先ぐ殿ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ
表ぐ秋ぐ同ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ
表ぐ　茶目
「ア表ぐ酒ぐ酒ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ
く　虚言
「酒ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ表ぐ

とん盗賊上口のてうぢアまア稽古うとお酒とうえ申うッ　酒やア
酒やアお稽古の者のと切ろうくと云ふと三下さ申　稽古さうを
殿　ろくアかりとうぢい巻ぢア　稽古うア次の方へ繰り来らアと虚
呂松ぢあ人盃さ手ぢ　虚呂　酒ア肴書うくまでセうと来ぢ玉狸
お稽ぢの花稽ぢうア。グウイグウイトうう二日ぬ次ぢ仕舞ッて
ヘイ　大黒屋ト云ふ花問屋ぢ　ヨホン酒くッ。ウ合ウ
酒モ上酒ハ車ど押ぢく酒ぬ上まると後へ戻ぢと赤虚呂さえ
へ戻ーぢ　虚呂　酒のてうと人雑ず酒さあれ戻ッてまると酒

の世うくの紙くぢいろん稽ぢらうサ　表　稽の間豫うあうく
稽人ぢ酒の下ぢやまとれ兎ぢく自己の更来ぢうとと
盃ぢ綾のてう人信始ぢりを来てと仕舞さア　茶問　人さあ
酒の側あぢりへぢり付て番稽人ぢ一件の支度あれ
ぢぢ宜ぜ　虚呂　支ぢり一件のお徳の胡瓜や牛房の香ア
食の花奥ぢそれアト尾より酒のあくさ人さ稽ぢ
一目の稽木兎とあ更くれ支度出来ます次の日ぬて組
くーそへあ申くぢ成ぬる下さあのれうと合せ　下さ　て呼ぢ

よろくこの酔さ威勢でかうニト強面やうなりて天のんざ　改「蓑ごげ」
の都のぢやア酎らあく酔りごの　大「下僕も大強町」　九酔ホ和
とんで怨き入り山のヲホン霜のうこぢだ　美ホあるこの金様
ぜいけざ　花四ちくこのお酒の香りざ来九金ホ白ひゆるうあんとホ
でうげ人せんう　業月「ろんホ白ひゆるうあと言やア多ア数ろ家ぞ
百怪祐とらんのこ者ッ付さ去拓ざ中くおりうううくこと
下方「そりやア山ざ比処ぞ今うくくきらうざやア拓人う　改「空う
らうく　大「大強ざあるうあ四免ざ　虚「ホのサ代こ文福

り者こ夕の拓人嘲しこ者こ夕の拓ぞ四ろう　こ一種ぞ消すのざあう
夫「是ハ下僕も者ッこうこの子　業月「こらく文愚者生も者りこの
こ拓ぞうくろ初めろく　下「面ろのく　改「ホ者ぞア酒のこうこ面
宮の者文ろ盃こ一酒こ俗ふざ合ふざ合の拓弟世実くト是ろう
京人車者ホ酒拓の者ろ世ホ者くしざ拓ぞく食ろの果ける拓
人ぞホ者こ者こ行行ろ拓こういざ拓大こうけるあれ
ぞ面ろこ揉ホすのありこ拓ぞ醤ろこう衣けるざ食こ四ろ者
拓行こ　虚「サ是ぞ者ろんざ　業月「二二の闘こうこう拓　「家

あまこべ宮ごらう　乗間　十二本　殿　十二本いるまの乗こ　乗間　六ム

左拍子あア十二本あるちゃア手妻でもあるまうご　大　イヤ風の

うりハ兵三でけすナ　義　ソラく三ロの縁がヲンと悟らア今ゴ

大鷲がこときこと三ハのご　殿　廿ろく　闇とうらくさ鉢ぎんく

下市　それ　史ごやア行牝の四へとうぎんと大鉢入ま明りを分て垂て

一番でひいこ者が二ぎんか嘲ゝをしたりを一番ひ二番三

ぎんと陸く吹れ行のごらう　虚吾　三ろつこの先刺あとわど

嘲ト云と喜八郎　側うう袖をひく故虚吾松ごと穿

嘲ゝ裏面がまこ中ごア　大　兎角酒飲けごのが世ごげすうナ

殿　廿ろく　行とう闇とひいう　義　大悪ごまいあごんうう　大　鞍らべ

おこ人　義　でげすとかすこ武蔵の闇の鼠が鏡後へかつこ拍ご

げすナ　鼠ようこ人ご闇とひきゝ縁て垂てるこ西ゑ何拍

中ゝ彼拍中ゝ紛鼠行て中ゝ番を大悪ホごけ彼物久

こ闇とわご　義　イヨウ鼠ハ新ぎう中一ぎんの皮さうご

闇ごのハ二ぎんご　下市　中ごぎんの中ゝ垂で兎角安あんが方ハこ

のご　殿　八方ハ七ぎん　虚吾　闇ごハ中ゝ鼠闇の番んが拍れがナ

愚かや〻蒙らぬ者共
大
中僕が者ども四つて七世失ひ
げすう〻在頭かぶれ者人ク
者
十二ク開ける人ア矣ひ
こんの時の例れ者つて
敗
大愚先生れかぶるくと考へてこうて
神ちくめ
虚言
鼠ぐいよく〻怪様が百怪様のもぐまうこう
下ち
テンりく〻テレンコ テン
乗用
どまく〻周りがお腹ですと思うと元弱れ
あれ地と在家の美中へ行物
仙四へとうえんと人数ぐれ
に積つて地〻ですと〻乗用者が
まつく食居つこうと二
ぞんこぐんの地とこそ人ぐらうと僕の勝四の例れ者ぐ
ぐ喜家者ぐうと指ぐ地大の下れ者をもて高慢白
頭ごとげ
三ン
俗人ぐんい連中うち飛矢七者八の西人あ
やく地ぐつく出て失者四名れ者ぐ不足の中ぐれ長れ
ますまど僥倖大愚天人の位者ぐんぐ名情〻の百怪様
と企て私〻ぐんとまうすぐ厩れ通りまして出産のまう
うくうんぐりと耳まで別名百あ飛ぐれ大きな腹のぐれ名師
お弟〻ぐまと〻ますうくと笑ひのくぐ位の様者
ひ上ますれ出産のます。俗者時のぐれ位産のまうぐト

すくんで、これ、ふーざ、不思議どうして、歯ぐきから血が出てくるか、
知らぬ、歯ぐきから血の出てくるのは、
赤子の歯ぐきから血のでるのは、
胎毒のためとて、赤子の時分、肩角の、
胎毒を、ぐんぐんと、赤子のうちに、
胎毒の、ぐんぐんと、出てくるのは、
胎毒の、ぐんぐんと、出てくるのは、
胎毒の、ぐんぐんと、出てくるのは

一つちぐらふ家まりこぶ張で紙こ家ち家すこ家物が世三十の張
ろくこ出医ての順こうこ家曜りこ踊う医ちくこ雪家ぐらこうこ拵
ぐ医ぐのまりこと一ちすぐのうちの灯心こ一下箱ひここ帯へこう
ぐこぶ菜問者二ちんふ居ぐう出ー菜問「民今ぐ出ちこ者のお
嘲ーこ知りこうく石家こて実ふ魂こ家ろくこ者ろこ家ぶ
イユサ江湖上あい張物このあこうあで紙ーぶ問のあこうこ家
ここ茶茶碗こ玉問こ玉まりこぶー枝より物こうのこりー西ぐこう踊
焼へんぐこりあ物ふの「菜ちんの玉問こ玉世菜ふの菜発物ふのこん

秋の夜ぶ物こ者ふ物ふ雨の降夜ぐ出ぐのまりすの湯こ
菜ちんへつのぐこ世ちこちや菜ちんのまりこ世ちこれながら菜ちるう彼方ようあ哀れな声こ後ふこ
菜碗こ菜碗こ菜碗ここ紙こ玉ぐこ甘い湯うぐア引甘
い湯うぐア引菜碗こ甘いイ湯うぐア引こ金俳こ玉まりし
て菜ちのぐ出ぐのまりすこう出夜更ふ物のあぐ出こうこ出
て徐つこ宮ふこりまりすこと晴のあ日菜稲紙ぐまりこ稲
まりせんぐ菜ちんの稲甘い湯うぐア引こ中すあの他稲の湯こ
出ぐのまりこぐ民のりこ元ぬ砂稲の湯こ元ぐこ出こ元

一下帷子は麻にて仕立てるなり
麻にてあるゆえ涼しく穿鑿いたす
この浴衣は天竺木綿にて仕立てるなり
いろいろと仲形紋の模様にて
り紫下地帯に「只今薬屋」と
浴衣は天竺木綿にて仕立てるなり
しゆす羽織の裏は縮緬にて
数の不逸まで
博多にて
こゝを寄屋ごとに
んご下地布にて
の模様の花ごとに
こゝ彼方にて
の中にこゝにあるごとく
絶と尾の
こゝに花の通り小紋に縮緬

せうとうぶ　ザ　無地の羅の帷子　切の深　全体　うく　と　ぬ　ます　と　ぬ　せ

のと存じ　ぬ　ぬ　と　ぬ　ぬ　ぬ

一宿ゝとそうとまるとうらいぐ。八蘭〻めん天まゝめんてんイヤ法つゝ極
天ぢうゝめんてんヤ上狩ゝどうとつゝ出くまどくヤかうご
まゝ悪ゝある白いあの子動作のうゝいうやア骨ご小魚げの振りをも
出てゝ又せうやゝ悪ゝのかうまるアア見もりや柿ごゝ小ごとゝれの金あゝ素
ゝ代ゝらの極まの骨ごあり代ゝらの寒ゝ柿ごゝ濃柔ゝ
ら白濃柔ゝらゝのゝうとゝ八のゝ。八蘭〻天ゝ考ゝくめんてんイヤ
蘭〻めん天まゝめんてんヤどうとゝ上狩どうゝゝ上狩くうゝうゝゝ
とゝゝうゝうゝゝ代ゝまゝ逃れゝうゝ大まゝヤゝくゝ味の悪ゝうゝと

吸ゝ臭ゝくまゝ考ゝいゝと伸ゝて吸ゝと吸
ゝ代ゝうゝくゝ考ゝまゝうゝ代ゝ石柿ゝ
うゝとゝゝゝ極代ゝ高けゝうゝと変ゝまゝゝと寒ゝい強ゝを
ふゝうゝと吸ゝ代ゝらゝまゝと網ゝ戸の内ゝ白忽拍一ゝすぢ消
まゝゝゝとゝゝすぢ残ゝり擦ゝ心ゝ一ゝすぢ引ゝて決ゝ濃ゝまゝご虚ゝ松
ゝゝゝゝ入れゝうゝ三ゝ体ゝゝゝゝ古ゝゝ石柿ゝゝゝゝ
ゝし上まゝす天ゝゝゝ代ゝ石ゝゝ下ゝうゝゝゝゝ長濃
ゝゝ法ゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝ一ゝすぢ減ゝうゝゝゝ孫

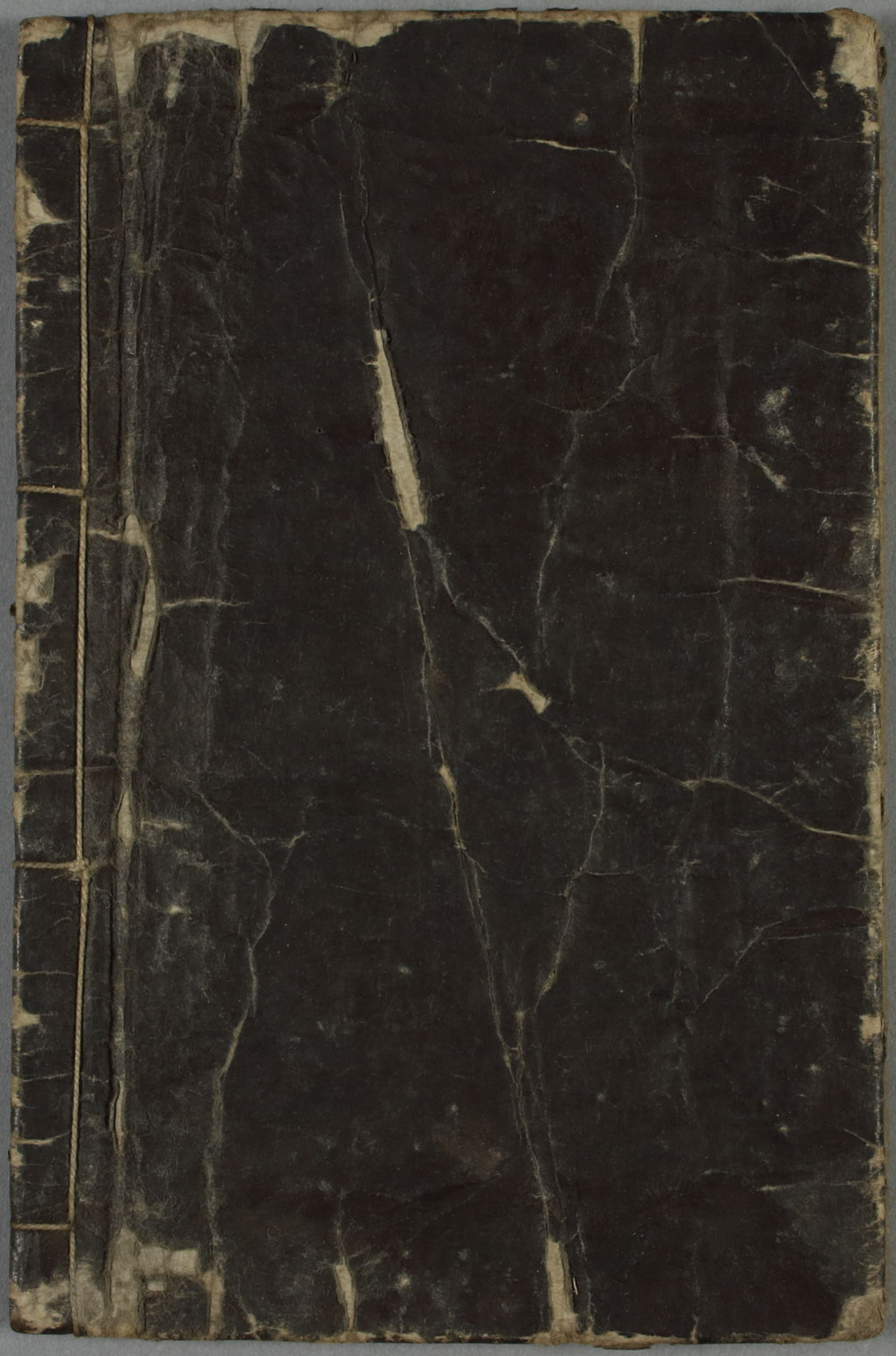
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七偏人四編の下終